

表紙作品について

作品：川瀬巴水「手賀沼」 昭和5（1930）年 木版多色刷 24.1×36.3cm
城西国際大学水田美術館所蔵

川瀬巴水（1883～1957）は大正・昭和を代表する風景版画家。全国を旅し、出会った風景を、季節や時間の移り変わりを繊細に反映した叙情性豊かな画面として描いた。東京市芝区（現在の港区新橋）に生まれ、洋画を学び、鏗木清方に日本画を学んだあと版画制作に邁進し、40年にわたり600点をこえる作品を発表した。

手賀沼は我孫子市、柏市、印西市、白井市にまたがる細長い湖沼。本作はその湖沼の一部を画面の左右端で切り取り、画面下から草の茂る手前の岸辺、船のうかぶ湖沼、山がちな向こうの岸、その上方に広がる入道雲と空と、帯状の空間を順に重ねた安定感ある構図であらわす。水田美術館本は一般に知られるバージョンとは色使いが少し異なり、入道雲や水面を染める夕陽はより範囲が広くより濃いピンク色である。そのため雲が立体的にみえ、手前の緑とのコントラストが強調されるなど、色の美しさが際立つ。シンプルだが洗練された構図と魅力的な色使いであらわされた穏やかな湖沼の様子。コレクションのなかで、学生にもっとも人気ある作品の一つでもあるのも納得される。

巴水の版画は処女作以来、版元・渡辺庄三郎の彫・摺になる。巴水作品の木版画ならではの美しさは、伝統的な版画技術を踏まえつつ新しい時代に応じた技法を工夫し「新版画」と呼ばれる芸術性の高い作品を送りだした渡辺庄三郎なくしてはあり得なかった。巴水の原画と版画を比べれば、版画となって、作品としての魅力が一層増していることがそれを証している。

参考文献：『(展覧会図録) 旅の版画家 川瀬巴水—大正・昭和の懐かしい風景—』
(城西国際大学水田美術館 2010年)、『川瀬巴水木版画集』(阿部出版 2009年)

発行日	2011年1月31日 城西国際大学 日本研究センター紀要 第5号
発行所	〒283-8555 千葉県東金市求名1番地 城西国際大学 日本研究センター TEL 0475-55-8800 (代表) 日本研究センター URL http://www.jiu.ac.jp/japan/
編集	日本研究センター刊行物編集委員会
発行者	水田宗子
印刷所	株式会社 正文社 〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町1-10-6 TEL 043-233-2235
